

主日礼拝

2023年11月05日
午前10時30分

前奏

参集（報告・紹介・予定）

招詞

「主をたたえよ

日々、わたしたちを担い、救われる神を。

この神はわたしたちの神、救いの御業の神

主、死から解き放つ神。」（詩編 68:20,21）

頌栄 26「グロリア」



グロリア グロリア グロリア ちちとみ子に



グロリア グロリア グロリア せいなる霊に

リタニー 「聖徒の日のリタニー」

司式者：神さまは、いのちをくださった。

みんな：神さま、いのちをありがとう。

司式者：いつか私たちは、

神さまのところに、帰っていきます。

みんな：どうぞ、神さま、お守りください。

司式者：亡くなった人も、今、ここにいる私たちも

みんな：神さまに守られてひとつです。

司式者：声をあわせて、賛美しましょう。

一緒に：神さま、あなたこそ、私たちのいのちです。

アーメン

祈禱

献金

主の祈り

天にまします我らの父よ、

ねがわくは み名をあがめさせたまえ。

み国を来らせたまえ。

みこころの天になるごとく

地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。

我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、

我らの罪をもゆるしたまえ。

我らをこころみにあわせず、

悪より救い出したまえ。

国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。

アーメン。

賛美 32「キリエ・エレイソン」



キリエ・エレイソン キリエ・エレイソン キリエ・エレイソン

しゅよあわれみを しゅよあわれみを しゅよあわれみを

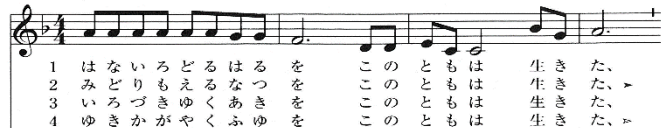
聖書 ローマの信徒への手紙 13:11~14

新約(新共同訳)P293

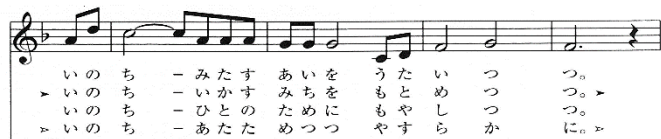
11 更に、あなたがたは今がどんな時であるかを知っています。あなたがたが眠りから覚めるべき時が既に来ています。今や、わたしたちが信仰に入っところよりも、救いは近づいているからです。12 夜は更け、日は近づいた。だから、闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に着けましょう。13 日中を歩むように、品位をもって歩もうではありませんか。酒宴と酩酊、淫乱と好色、争いとねたみを捨て、14 主イエス・キリストを身にまといなさい。欲望を満足させようとして、肉に心を用いてはなりません。

賛美 385「花彩る春を」

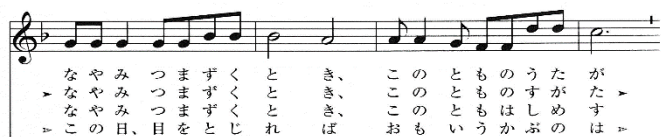
詞：上島美穂、1961— 曲：高橋晋一、1941—



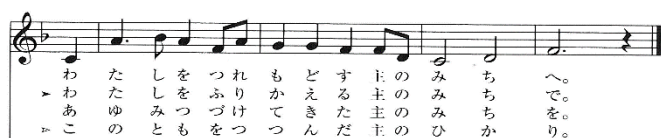
1 は ない ろどる はる を このともは 生きた、
2 みどりもえる なつき を このともは 生きた、
3 いろづきゆくあき を このともは 生きた、
4 ゆきかがやくふゆ を このともは 生きた、



いのち - みたす あいを うた い つ つ。
いのち - いかす みちを もとめ つ つ。
いのち - ひとの たため も や し つ つ。
いのち - あた たため つ やす ら か つ つ。



な や み つ ま ず く と き、 このとも の う た が た
な や み つ ま ず く と き、 このとも の す が た
この日、目を とじ れ ば おも いう か ぶ の は



わ た し を つ れ り も ど す 主 の み ち へ。
わ た し を ふ り か え る 主 の み ち へ。
あ ゆ み つ づ け て き た 主 の み ち へ。
こ の と も を つ づ け る 主 の ひ か り。

- | | |
|--|--|
| 1 花彩る春を この友は生きた、
いのち満たす愛を 歌いつつ。
悩みつまずくとき、この友の歌が
私をつれもどす 主の道へ。 | 3 色づきゆく秋を この友は生きた、
いのち 他人のために 燃やしつつ。
悩みつまずくとき、この友は示す
歩みつづけてきた 主の道へ。 |
| 2 緑もえる夏を この友は生きた、
いのち活かす道を 求めつつ。
悩みつまずくとき、この友のすがた
私をふりかえる 主の道で。 | 4 雪かがやく冬を この友は生きた、
いのちあたためつつ やすらかに。
この日、目を閉じれば 思いがけぬのは
この友を包んだ 主の光。 |

説教 「今がどんな時か知る」

賛美 575 「球根の中には」

In the bulb there is a flower
詞：Natalie Sleet, 1930-

PROMISE
曲：Natalie Sleet, 1930-

1 きゅうこんのなかに はなが ひめられ、
2 ちんもくはやが てうたに かえられ、
3 いのちのおわり はいのちのはじめ。

さなぎのなかから いのちはばたく。
ふかいやみのなかよあけ ちかづく。
おそれ はしんこうに、死は つかつに、

さむいふゆの なかはる はめざめる。
すぎったときが みらいをひらく。
ついに かわえられ る えいえんのあさ。

1-3 その日、そのときをただかみがしる。

- 1 球根の中には 花が秘められ、
さなぎの中から いのちはばたく。
寒い冬の中 春はめざめる。
その日、その時をただ神が知る。
- 2 沈黙はやがて 歌に変えられ、
深い闇の中 夜明け近づく。
過ぎ去った時が 未来を拓く。
その日、その時をただ神が知る。
- 3 いのちの終わりは いのちの始め。
おそれは信仰に、死は復活に、
ついに変えられる 永遠の朝。
その日、その時をただ神が知る。

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」

会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏

司式 山野上 純子
説教 向井 希夫牧師
奏楽 福原 之織

※お立ちになるのが困難な方は、
座ったままで礼拝をお守り下さい。

※讃美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。